

小笠原における今後の観光振興について

1 現計画の観光振興の考え方

〈計画の基本理念〉

自然環境の保全と観光振興の両立による自立的発展

〈施策の方向〉

T S L 就航を契機に観光客数の大幅な増加を目指す

〈振興開発事業計画〉

- (1) 新たな観光メニューの開発
- (2) 観光客受入態勢の整備
- (3) 観光業と他産業との連携強化
- (4) 環境と調和した景観の創出
- (5) 観光情報の発信・提供

「環境整備」が中心



T S L 就航断念を踏まえ、観光客増加に向けた新たな振興策が必要

2 小笠原観光の現状と課題

- (1) 観光客数は横ばい・遞減傾向
平成12年 29,588人 → 平成16年 26,674人
- (2) 客層は若年層中心、高齢者層・家族連れは少ない。
24～40歳が約半数、60歳以上は8.5%（平成15年）
- (3) 繁忙期と閑散期の差が大きい。
繁忙期(8月) 4,457人 ⇔ 閑散期(1月) 635人（平成16年）
- (4) 交通アクセスは「おがさわら丸」のみ。

3 今後の観光振興の考え方

観光客増加に向けた新たな振興策の展開

⇒ 17年度内に検討、可能なものから順次実施

- (1) 世界自然遺産登録など、観光資源の一層の魅力向上
- (2) 航空路の開設を含めた交通アクセスの改善
- (3) P R活動の強化など、既存施策の充実・強化
- (4) 修学旅行・シニア層の誘致など、多様な観光の推進